

認知症の患者のうち、6～7割を占めるとされる「アルツハイマー病」。誰もがなり得る病で、いまだ根治療法はないものの、新しい治療薬が相次いで登場している。これら新薬の作用や注意点について、専門医に聞いた。

# KARTE カルテ Q & A

## アルツハイマー病

アルツハイマー病と診断されたとき、不安や戸惑い、恥ずかしさを感じる方は少なくありません。「家族に迷惑をかけてしまうのでは」と心配する人もおられるでしょう。

アルツハイマー病は、脳にアミロイドβ(ベータ)というタンパク質が異常に蓄積

アルツハイマー病はのびつくり進行する病気ですが、早い段階からの対策で進行を緩やかにできる可能性があります。2023年以降、病態に直接働きかける「抗アミロイドβ抗体薬」が承認され、現在、レカネマブ(商品名・レケンビ)とドナネマブ(同・

ケサンラ)が使用可能になりました。「アルツハイマー病による軽度認知機能障害(MCI)」「アルツハイマー病による軽度認知症」が対象で、脳内のアミロイドβを除去し、進行を遅らせる作用が期待されます。

間に1回の点滴を、原則12カ月または18カ月間続けられます。注意すべき副作用に、脳のむくみや小さな出血で生じるARIA(アミロイド関連画像異常)があり、治療中はARIAを早期に発見し適切に対応するため、定期的なMRI検査が必要です。

### 相次ぎ新薬、進行遅らす効果期待

し、神経細胞が徐々に減少する病気です。アミロイドβは症状が現れる10～20年も前から蓄積し始めるといわれます。そのため、もの忘れがあってもアミロイドβの蓄積が認められない場合はアルツハイマー病ではありません。

認知症は誰もが「なりたくない」と感じる病気ですが、決して珍しいものではありません。新しい治療薬で完治するわけではありませんが、生活習慣の見直しやリハビリテーションと組み合わせることで、自宅で自立した生活を続けられる期間を延ばすことが

期待されます。認知機能に不安を感じる方は、早めにかかりつけ医に相談し、専門医療機関を受診することをお勧めします。

◇第1、3、4日曜に掲載  
(兵庫県医師会、福島春子II  
神戸市立医療センター中央市民病院精神・神経科医師)

治療は、2週間または4週